

なごや蓄音機クラブ 5月例会のお知らせ

浮世絵&蓄音機『香津原』で、柿落としとして4月28日に行われた蓄音機サロン「特集：タンゴ」は大成功でした。東京からはるばるお越しいただいた特別コメンテーター島崎氏の、絶妙ともいえる語り口にのせて蓄音機EMG MarkIXから流れ出たサウンドには参加者全員大満足。やや小さ目のギャラリー空間にぴったりだったと感じました。島崎氏は「このような素晴らしい音でタンゴを聴くことができるのは、世界中で名古屋だけです。東京のタンゴファンもここへ来てタンゴのSPレコードを聴くべきだ」と興奮気味に語ってみえました。

そこで、次回のご案内です。5月例会は、少しユニークな内容になっています。

日時：2018年5月26日（土） 午後4時30分開場 5時開演（終演予定7時）

会場：浮世絵&蓄音機『香津原』

名古屋市昭和区山里町70-2 山手アベニュー107

内容：第1部（5時より）：「黒沢映画と歌謡曲」

コメンテーター：勝原良太氏、アドバイザー：岩田国保氏

第2部（6時より）：「時代を刻むSP～借景としての音楽～」

コメンテーター：湯山 誠氏

会費：1500円（お茶・お菓子付）

定員：40名 *要予約（定員になり次第締め切ります）

参加ご希望の方は必ず申し込んでください。→090-3855-1200（勝原）

※レコード提供：岩田国保氏・勝原良太氏・湯山 誠氏

●「黒沢映画と歌謡曲」について

黒澤明の映画「酔いどれ天使」と「野良犬」では、当時流行の歌謡曲（例えば、東京ブギウギ、ジャングル・ブギ、ブンガワン・ソロ、南のバラ、など）がたくさん（15曲以上も）使われています。これは、音楽を担当した早坂文雄と黒澤明の好みを反映したものといえます。彼ら二人のクリエイターが、なぜこのような歌謡曲を採り上げたのか。その魅力はどこにあるのか。映画と音楽の両面からその秘密に迫ります。

●「時代を刻むSP～借景としての音楽」について

70年以上前に演奏されたバッハやモーツァルト、ベートーヴェンらの音楽を80年前につくられた蓄音機で聴く。レコードの溝に刻み込まれた音楽が拾い出されると、まるで隣の部屋で生演奏しているかのようなライブ感に包まれる。1枚4分足らずのSPレコードの聴覚世界に、作曲家や演奏家たちが生きた時代が情景として重層的に映し込まれているのだ。

世界恐慌に揺れた1929年からナチス・ドイツの台頭で揺れ動く30年代の欧州、そして第二次世界大戦。LPレコードに取って代わられる1950年代初めまで、SPに刻まれた時代を「借景」として観ていただきたい。（湯山 誠氏弁）

《予定曲目》J.S.バッハ「ゴルトベルグ変奏曲」「教会カンタータ」、モーツァルト「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」、ベートーヴェン「交響曲第7番」、シューベルト「歌曲集 冬の旅」ほか

なごや蓄音機クラブ 090-3855-1200（勝原）